

令和8年1月23日

茅ヶ崎市病院事業管理者
中沢 明紀 様

茅ヶ崎市病院事業経営審議会
会長 松原 由美

茅ヶ崎市立病院経営計画の点検・評価（令和6年度 期末期）について（答申）

令和7年7月28日付け7茅病経第10号で諮問のありました「茅ヶ崎市立病院経営計画の点検・評価（令和6年度 期末期）」について、各委員から出された意見を受けて、次のとおり答申します。

答 申

茅ヶ崎市立病院経営計画（以下「経営計画」という。）では、令和6年度から令和9年度までを計画期間とし、その主旨は、「経営の効率化等」と「公立病院として期待される役割・機能の発揮」の2点とされています。このうち、「経営の効率化等」については、経営改善を進め、令和9年度までに段階的に「経常収支の黒字化」を図ることを「最終経営目標」として掲げています。

また、茅ヶ崎市立病院の経営形態が見直され、令和5年4月から、地方公営企業法の「全部適用」となり、新たに病院事業管理者が置かれました。令和6年度は、新たな経営形態のもとで、経営計画の実現に取り組まれた「初年度」でした。

このような中で、令和6年度の達成状況に関しては、「最終経営目標」である「経常収支比率」に着目すると、次のとおりの結果報告を受けたところです。

令和6年度収支達成状況

項目	令和6年度目標値	令和6年度実績値	増減
経常収支比率	95.7%	97.4%	+1.7ポイント
（参考）経常損益	▲5.7億円	▲3.6億円	+2.1億円

「経常収支比率」は目標値 95.7%に対して 97.4%となり、1.7ポイント上回る実績となっています。また、経常損益として見込まれた赤字額は 5.7億円に対して 3.6億円となり、

赤字幅を 2.1 億円縮減する実績となっています。特に、「経常収支比率」の 97.4%の数値は、経営計画における令和 7 年度目標値 97.5%に相当する水準であり、経営改善が当初の予定を上回るペースで進捗し、次年度目標に迫る成果を上げています。このことから、経常収支の黒字化に向けた取り組みが、順調に進んでいるものと評価できます。

これは、「入院・外来収益の増収」に重きを置き、収入確保に取り組まれたことによるもので、その取り組みは、地域連携や広報活動の強化等による患者数の増加、令和 5 年 8 月に開設した脊椎センター・人工関節センター等による手術件数の増加、診療報酬加算の取得等、多岐にわたっています。なお、入院収益は 76.8 億円（対経営計画比：5.8 億円増収、対前年度決算比：8.1 億円増収）、外来収益は 39.6 億円（対経営計画比：0.7 億円増収、対前年度決算比：1.4 億円増収）となりました。これは、多岐にわたる各取り組みの相乗効果により、大幅な増収につながったものと評価できます。

また、「病院重点目標」を設け、診療科ごとに目標値を設定するとともに、病院事業管理者や病院長が各セクションの職員とのヒアリングを実施し、実績を共有しながら、必要な対策や手法の議論を深めるなど、目標管理にも積極的に取り組まれました。

病院事業管理者や病院長のリーダーシップのもと、職員との意見交換等を通じ、「経営に対する職員の意識の向上」がより図られたこと、これにより、病院全体で戦略的かつ重点的に収入確保に取り組まれたことが、大幅な増収につながったものと考えられます。財務に関する数値の多くが改善傾向にあり、令和 6 年度は経営計画が概ね達成されたものと評価できます。

しかしながら、「公立病院として期待される役割・機能の発揮」に着目した際には、経営計画における重点的な取り組みである 6 項目について、概ね進捗していると評価できる一方で、特に「救急診療の充実」に関しては全項目において目標未達であること、加えて、病棟や手術室のキャパシティに関する分析を進めながら、病床利用率の向上を一層進める必要があることなど、今後の経営計画の進行管理において、強く留意すべき課題も見受けられます。

現在、全国的に、長期化する物価の高騰等により、公立・民間問わず病院経営が非常に厳しい状況に置かれていますが、一定程度、公金の繰り入れがあることも事実です。

今後は、これまで以上に、収支の動きや財務状況等をきめ細かく確認しながら事業運営を進め、病院が一体となり、自立的な自治体病院として、最終経営目標の早期達成に邁進していただくことを期待します。

以上